

新規事業評価調査書

事業名		公立大学法人大阪府立大学 獣医系学舎新築整備事業
所在地		泉佐野市りんくう往来北
事業概要	目的	大阪府立大学の生命環境科学部・同大学院は、昨年4月の府立三大学の再編・統合及び法人化を機に、旧農学部・同大学院を再編し、バイオサイエンス分野に関する教育研究を重点的に行うとともに、関連する学問領域を融合させた新しい学部・研究科として発足したところである。 生命環境科学部及び同大学院のうち、獣医学科及び獣医学専攻については、動物系バイオ研究の新たな拠点づくりを目指し、りんくうタウンでの展開を図ることとしており、今般、りんくうタウンにおいて関係学舎整備を行うものである。
	内容	敷地面積：約 11,000～12,000 m ² 学舎規模：約 17,000 m ² 本棟 ・規模等：RC6階建て程度、約 15,500 m ² ・主要施設：研究室、講義室、実習室、 獣医臨床センター（診察室、各種検査室）等 動物飼育棟 ・規模等：RC2階建て程度、約 1,500 m ² ・主要施設：無菌動物室、実験動物室、洗浄室等
	事業費	総事業費：約 65 億円（建設費用：約 45 億円、建設単価 267 千円 / m ² ）
	維持管理費	約 1.6 億円 / 年（「建築物のリサイクルコスト」(財)建築保全センター発行による）
	関連事業	-
上位計画等の位置づけ	大阪府立大学キャンパスプラン（H17.3） ・生命環境科学部大学院学舎の施設整備にあたっては、社会人にも開かれた開放型の高度研究型大学にふさわしい研究環境づくりを行う。（りんくうタウンでの展開については、生命環境科学部大学院から獣医学科及び獣医学専攻へ変更を行ったため、現在、キャンパスプランの修正作業中。） 公立大学法人大阪府立大学中期目標（H17.4） ・大学が目指す高度研究型大学にふさわしい教育研究環境を確保するための新しいキャンパス展開について、整備内容を確定の上実現を図る。	
優先度	バイオサイエンス研究の著しい進展に対応するため、早期の研究環境の整備が不可欠。	
事業の進捗予定	事業段階ごとの進捗予定と効果	【予定年度】平成 18 年度：設計、平成 19・20 年度：工事 【効果】動物系バイオ研究の充実、及びそれを通じた全学的な活力向上。 また、府域の均衡ある発展への寄与。
	完成予定年	平成 21 年度

事業を巡る社会経済情勢	事業目的に関する諸状況	<p>【学舎の活用について（キャンパスプランによる方針）】</p> <p>獣医学科及び獣医学専攻が現在使用している学舎については、建設年次が比較的新しい学舎であることから（S40年、S58年、H2年建設）りんくうタウンへの移転後、順次改修工事を実施し、工学部及び同大学院が使用することとしている。</p> <p>なお、中百舌鳥キャンパスにおける各学舎の整備手法については、大学法人資産の有効活用の観点から、可能な限りリニューアル改修で対応することとしている。</p> <p>【大学間競争の激化】</p> <p>18歳人口の減少や社会のグローバル化により、かつてない厳しい大学間競争の時代を迎えようとしている。</p> <p>このような中、公立大学法人大阪府立大学が「世界に通用する“高度研究型大学”」を目指すためには、特色ある研究の推進や研究成果の社会への還元、高度な専門的知識を備えた人材の育成などが不可欠であり、これらを可能とする教育研究環境の整備が求められている。</p> <p>【バイオサイエンス研究の著しい進展】</p> <p>バイオサイエンス研究はとりわけ日進月歩。バイオ研究の進展に後れをとることのないよう、研究環境の早期整備が求められている。</p> <p>【りんくうタウンのまちづくりへの寄与】</p> <p>バイオ研究の新たな拠点形成等を通じて、りんくうタウンのまちづくりにも寄与できる。</p> <p>【耐震性、安全性の確保】</p> <p>学舎には研究の性質上、薬品棚や高圧ガス配管、各種研究機器類などが多数配置されており、地震や火災発生等緊急時の安全性の確保が重要な課題となっている。</p>
	地元等の協力体制	<p>昨年11月に、建設予定地である泉佐野市を含む「阪南5市3町町会連絡協議会」から生命環境科学部大学院をはじめとする学術研究施設の整備要望が出されているとともに、今年1月には、同じく泉佐野市を含む「泉南地域7市4町」から同大学院の移転実現要望が出されている。</p>

事業効果の定量的分析	費用便益分析	具体的な便益内容	受益者	費用便益比	備考
	その他の指標 (代替指標)	-			
事業効果の定性的分析	安全・安心	新築整備により、耐震性能・防火性能を十分に備えることができ、安全性の向上を図ることができる。 バリアフリー設計により、誰もが安全でかつ快適に施設を利用することができる。			
	活力	りんくうタウンにおいて動物バイオの研究環境を強化することにより、全学的な活力向上を先導することが期待できる。 中百舌鳥キャンパスにおける学舎整備については、転がし方式を基本としていることから、獣医学科及び獣医学専攻の移転による空き学舎の活用により効率的な学舎整備が図れる。			
	快適性	施設全体を現在の水準にあった仕様とすることができ、教育研究環境が向上する。 電気・空調設備等の能力を向上させることにより、設備の陳腐化が改善され、研究環境が向上する。			
	その他	設備機器の最新化や断熱工法の採用により、CO ₂ の削減をはじめとする環境負荷の軽減を図ることができる。			
自然環境等への影響と対策	建設予定敷地は、現在空地となっており、自然環境に与える影響はほとんどない。また、りんくうタウンは、地域冷暖房設備や共同溝などのインフラが完備している。 建設段階においては、省エネルギー、省資源、リサイクル、廃棄物処理・適正処理等について、また、維持管理面においても低環境負荷型の施設が実現できるよう、要求水準書作成時において検討を行う。				
代替案との比較	りんくうタウンには、未知の感染症患者を受け入れることができるりんくう総合医療センターや関空の空港検疫機関等があり、獣医学科及び獣医学専攻の教育研究の推進にとって有利な条件を有している。このため、当地での展開は、動物系バイオ分野の研究ポテンシャル向上と、これを通じた人材育成、さらに大学全体の総合力を大きく向上させる引き金になるものであり、獣医学科及び獣医学専攻が展開する最適地である。				
その他特記すべき事項	<p>【キャンパスプランの策定(H17.3)】</p> <p>学舎整備を効果的、効率的に行うための計画を策定し、それに基づいたキャンパス全体の抜本的な整備に取り組む必要があることから、キャンパスプランを策定。</p> <p>同プランにおいては、「各学舎の整備手法については、大学法人資産の有効活用の観点から、可能な限りリニューアル改修で対応する」、「大学の学舎整備を進めることが、府の行財政計画の収支見通しに悪影響を及ぼすことのないよう、府の財政状況も踏まえつつ、財源と事業費を十分に精査しながら整備を行うこととする」としている。</p>				

【学舎整備手法について】

公立大学法人の学舎整備については、設立団体(大阪府)からの施設整備費補助金を基本的な財源として実施されることから、コスト削減と資金需要の平準化を図る必要がある。このため、以下の手法により、学舎整備を実施することとしている。

大学法人の目的(学舎整備・資金調達)を達成するため、大学法人に成り代わって学舎整備事業を行う主体となる特別目的会社(SPC:(有)府大学舎等整備センター)を設立。

SPCは、金融機関から資金を調達し、CMR(コンストラクション・マネジメント会社)を活用して、設計会社・工事会社等に事業を発注。

大学法人は、SPCからの建物引渡し後、長期割賦払いを行う。設立団体(大阪府)は、施設整備補助に係る債務負担行為を適宜設定し、公立大学法人の長期割賦払いに対応して、施設整備費補助金を順次交付。

SPCは、公立大学法人からの長期割賦払い金をもって、金融機関へ返済。

【教育研究組織について】

(学部)	(研究科)	(全学教育研究組織)
工学部	工学研究科(中百舌鳥)	総合教育研究機構(中百舌鳥)
生命環境科学部	生命環境科学研究科	産学官連携機構(中百舌鳥)
・生命機能化学科	・応用生命科学専攻	学術情報センター(中百舌鳥)
・生物情報科学科	・緑地環境科学専攻	
・植物バイオ工学学科		
・緑地環境科学科		
・獣医学科	・獣医学専攻(りんくう)	
経済学部	経済学研究科(中百舌鳥)	
理学部	理学系研究科(中百舌鳥)	
人間社会学部	人間社会学研究科(中百舌鳥)	
看護学部	看護学研究科(羽曳野)	
総合リハビリテーション学部(羽曳野)		

その他特記すべき事項